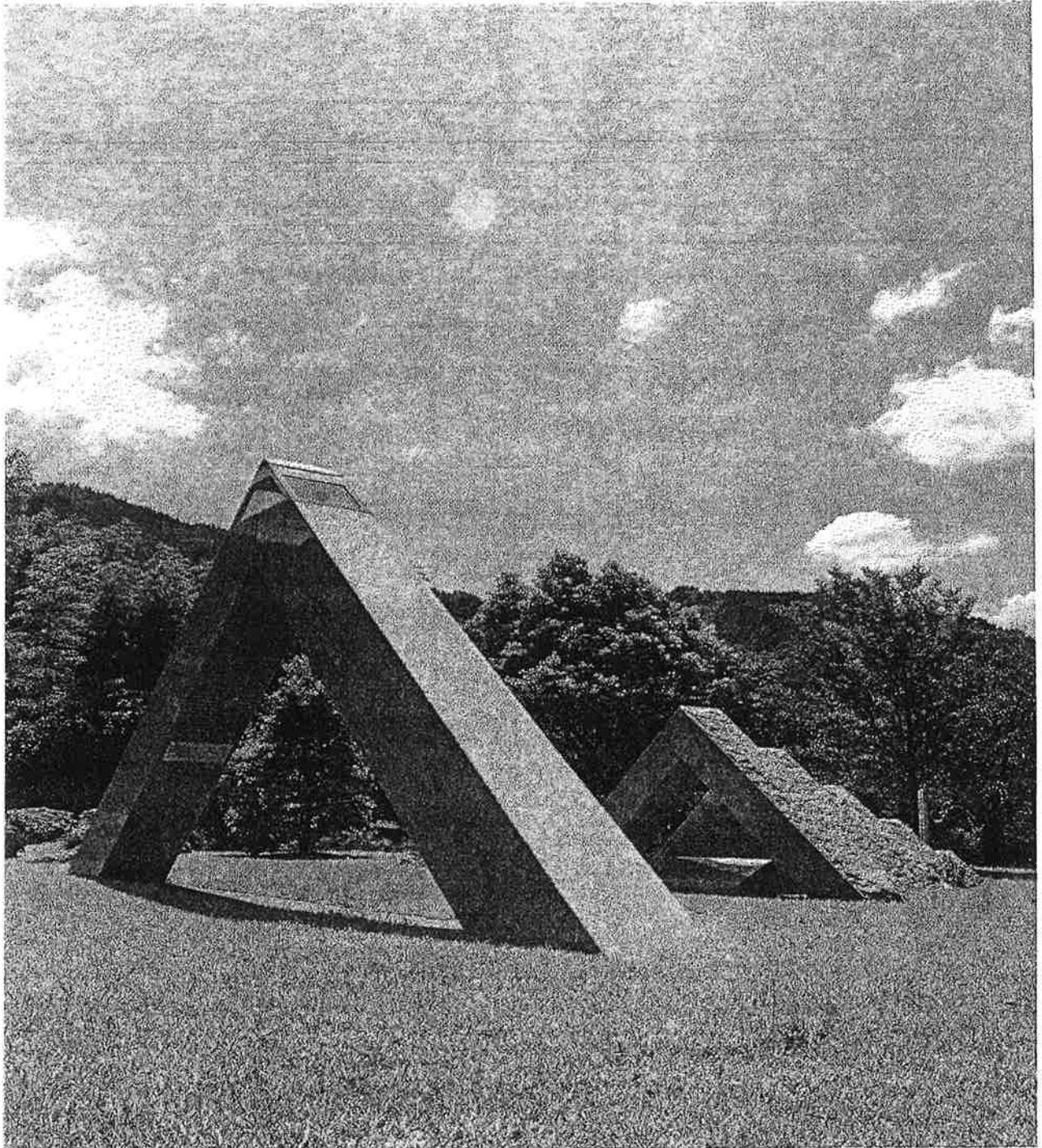


令和4年度

# 八女市平和祈念式典



日時：令和4年8月6日（土）午前8時10分開式

会場：星のふるさと公園平和の広場

八女市役所 URL:<http://www.city.yame.fukuoka.jp/>

## 平和祈念式典 次第

1. 開 式
2. 黙とう「サイレン吹鳴」  
原爆死没者の慰霊と恒久平和を祈念
3. 式 辞「八女市長 三田村統之」
4. 広島市長メッセージ
5. あいさつ  
「福岡県原爆被害者団体協議会会長 中村 国利 氏」
6. 平和の誓い  
「小学生代表 八女市立星野小学校  
6年生 高木るな さん」  
「中学生代表 八女市立星野中学校  
3年生 祝原奉孝 さん」
7. 千羽鶴献呈
8. 献 花
9. 「この灯を永遠に」合唱（星野中学校全校生徒）
10. 閉式

## 平和の塔の由来

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。広島を焦土と化したその火が、広島から遠く離れたこの地に、今もなお燃え続けています。

八女市星野村（旧星野村）で生まれ育った山本達雄氏は、1944年（昭和19年）12月に3度目の召集を受け、豊田郡大乘村の暁2940部隊で任務に就いていました。1945年8月6日、山本氏は、いつもの通り、広島の宇品にあった暁部隊司令部に向かうため、汽車に乗っていました。そして、もうすぐ広島駅という所で、突然車中をイナズマ（稲妻）が走ったかと思った瞬間、乗客は床に叩きつけられ、大地を揺るがす爆発音とともに汽車が止まりました。無事を確認した山本氏は、軍人としての使命感から、汽車を降り司令部に向かって走り出しました。また同時に山本氏の脳裏には、市内で金正堂書店を営む叔父・山本彌助の安否が気掛かりでした。しかし、市内に近づくにつれて目の当たりにするのは、燃えさかる炎の中、男女の区別もつかないほど焼けただけ、もがき苦しむ人々の群れと、断末魔のうめき声。その惨状は、この世のものとは思えない地獄絵だったといいます。

8月15日終戦を迎え、山本氏は、これまで父親代わりに自分を育ててかわいがってくれた叔父の行方を必死になって探しましたが、どうしても見つけることができませんでした。

復員命令が出た山本氏は、一面焼け野が原となった広島で、何の手がかりも見出せないまま、最後の別れに金正堂書店の焼け跡に行きました。そこで、書店の地下壕でくすぶり続けていた火を見つけ、せめて叔父の遺骨代わりにと、出征するときに祖母が持たせてくれたカイロに移しました。9月16日のことでした。

こうして広島原爆の火は、奇跡的に350km離れた八女市星野村へと運ばれることとなりました。以来、この火は、遺骨すら見つけることができなかった叔父・彌助と、目の当たりにした多くの原爆犠牲者の供養と怨念の証として、山本家の仏壇に灯され、火を絶やさないために火鉢やカマドにも移し、人知れず23年間灯し続けられました。

戦争のない平和な世界への願い、しかし、原子爆弾に対するどうしようもない憤り。

息絶える人々に託された憎しみと報復への約束。23年の歳月は、山本氏にとって言葉では到底表現できないほどの苦しい心の葛藤の日々でもありました。

1968年（昭和43年）、当時の星野村は、この火を全村民の平和への願いとして受け継ぎ、同年8月6日、旧星野村役場に建立された平和の塔に灯され、以来、毎年広島に原爆が投下された8月6日午前8時15分、全村民をあげて平和祈念式典を開催してきました。

1988年（昭和63年）5月、ニューヨークで開催された第3回国連軍縮特別総会に「平和の火」として届けられ、また全国各地に採火され、平和のシンボルとして灯されました。その後「平和の火」は、被爆50周年を迎えた1995年に整備された平和の広場に、福岡県原爆死没者慰霊の碑と共に新たに建立された平和の塔に灯されました。

2010年（平成22年）、合併に伴い八女市がこの火を引き継ぎ、毎年、原子爆弾が投下された8月6日に平和祈念式典を開催しています。

この火は、2004年（平成16年）5月11日に永眠された故山本達雄氏の御霊と共に、争いのない平和な世界を願って、これからも永遠に灯し続けます。



広島に投下された原爆の火を持ち帰られた

故山本達雄氏



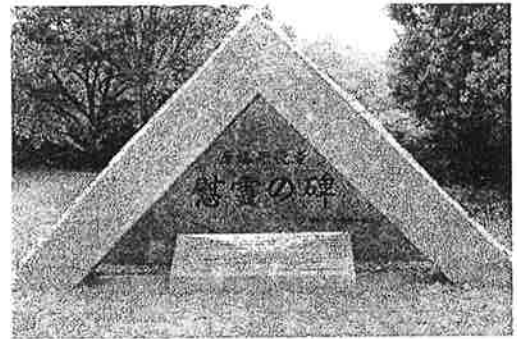
1995年まで灯し続けた平和の塔

### 福岡県原爆被害者団体協議会原爆死没者慰霊の碑

1995年に整備された平和の塔は、福岡県原爆被害者団体協議会の「慰霊の碑」と伴に建立されました。

#### 原爆死没者慰霊の碑【碑文】

1945年（昭和20年）8月6日・9日、広島・長崎に原子爆弾が投下され、2つの都市は一瞬のうちに消滅しました。福岡県民でこの原子爆弾により現地で死没した人、帰郷後原爆症で死没した人、被爆後他県から福岡県に移住して死没した人、さらに身許不明の犠牲者として遺骨を現地に留める人、遺骨もないまま広島・長崎の地下に今もむなしく埋もれる人など未曾有の痛苦のうちに世を去った多数の福岡県の被爆者の霊に対し深い弔意を捧げます。福岡県内には、広島・長崎に次いで1万有余人の被爆者が住んでいます。そして、1995年（平成7年）被爆50周年を迎え、福岡県原爆被害者の長年の願いであった原爆死没者慰霊碑が星野村のこの地に建設されました。私たちは村のこのご厚意に感謝するとともに、建設にあたりご援助いただいた国・県をはじめ、県民各位のご援助に厚くお礼申しあげます。御霊よ安らかに眠ってください。



1995年3月 福岡県原爆被害者団体協議会

非核・恒久平和都市宣言に関する決議

恒久平和は、人類共通の念願であり国際的な核軍備拡大競争は新たな核戦争の危険を増大させている。

我が国は、核被爆国として、また平和憲法の精神からも再び広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

われわれは、命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願ひ核兵器廃絶を全世界に訴えらるとともにこの人類普遍の大義に向かって不断の努力を続けることが肝要である。

よって八女市は平和への誓いを新たに決意し、ここに「非核・恒久平和都市」を宣言する。

以上決議する

昭和58年12月21日

八女市議会

## //平和の火 HISTORY//

- 1945年 8月 6日 人類史上初めて、原子爆弾が広島に投下される
- 1945年 9月 16日 山本達雄氏は、叔父彌助が営んでいた金正堂書店跡地から、原爆の残り火をカイロに入れ持ち帰る。以来、23年間自宅の仏壇やカマドで灯し続けられる。
- 1966年 8月 6日 山本氏が秘かに灯し続けてきた原爆の火が、朝日新聞に掲載され、多くの人が火の存在を知ることとなる。
- 1968年 8月 6日 火が山本氏から星野村へ受け継がれ、星野村役場に建立された平和の塔に灯される。以来、星野村では、毎年8月6日に平和祈念式典を挙げる。
- 1988年 3月 14日 星野村定例村議会において、核兵器廃絶恒久平和の村宣言に関する決議を採択する。
- 1988年 3月 24日 同年5月末に開催される第3回国連軍縮特別総会に向け、採火された火は、原水協を中心とする平和団体により全国をリレーし、開催地ニューヨークへ届けられる。
- 1990年 9月 29日 星野村は、平和の塔の設置及び管理に関する条例、施行規則を制定し、平和の火の分火及び採火に関する基準を定める。
- 1991年 8月 25日 原爆の火をテーマにしたカンタータ「この灯を永遠に」が東京在住の作曲家安藤由布樹氏により作曲され、その初公演が久留米市と星野村立星野中学校体育館で開催される。この公演は、「東京この灯を永遠に合唱団」と「星野平和の灯音楽祭実行委員会」の企画により実現することとなる。
- 1995年 5月 8日 平和の広場に新たな平和の塔を建設し、平和の火を移設し灯される。新たな平和の塔は、彫刻家横沢栄一氏に設計を依頼、福岡県原爆被害者団体協議会の慰霊の塔と一体で建立される。
- 1999年 4月 27日 長崎県の式見中学校から送られたクスノキの苗木植樹。
- 2001年 8月 6日 平和祈念式典に広島市長からメッセージが送られ、式典で代読により紹介される。以来、毎年式典に広島市長からメッセージが届けられている。
- 2003年 8月 6日 平和祈念式典で、星野中学校全校生徒により「この灯を永遠に」が合唱される。以来、星野中学校全校生徒により平和祈念式典で歌い継がれている。
- 2004年 5月 11日 山本達雄氏永眠。享年88歳。
- 2005年 8月 6日 被爆60周年式典で、戦争・原爆詩の朗読会やカンタータ「この灯を永遠に」を作曲された安藤由布樹氏の講演会を開催する。
- 2010年 2月 1日 星野村は、市町村合併により八女市となる。平和の火も星野村から八女市に引き継がれる。
- 2015年 8月 30日 広島市長、八女市（星野村）へ訪問。広島市より寄贈された「被爆アオギリ二世」の植樹式が平和の広場にて開催される。

### // 平和の塔に関して //

所在地 福岡県八女市星野村10821番地1 星のふるさと公園「平和の広場」

アクセス 九州自動車道八女I.Cから24km

JR鹿兒島本線羽犬塚駅⇒堀川バス「池の山前バス停」約60分

連絡先 八女市役所星野支所まちづくり推進係 0943(52)3112/FAX(52)3283